

「友達だから彼らを理解できる」

1979年当時のオーストラリア
実習は、雨が降らなければ朝7時から夕方6時まで土日関係なしで働く
ことができ、辛いと思ったことは一度もなかった。そして2週間に1日
程度、雨が降るときは完全な休みになる。

雨模様のある日に朝からボーとしていると、1月の夏休み中だった、
ホスト・ファミリーの長男タイトと二男マンソンがスゴロクのような模様の紙を使って**戦争物のGIジョー・ゲーム**をやっていた。高さ5cmくらいの第二次大戦スタイルの白人兵士が高さ4cmくらいのアジア人っぽい兵士と戦争ごっこをやっているのだ。ダイニングのど真ん中を占領して兄弟のどちらがGIジョーになるのかケンカしている様子を見ながら、GIジョーが星条旗を付けた米国の兵士だとすぐに理解できたが、**少し背の低い兵士**は誰なのか分からなかったので2人に聞いてみた。

10歳になる兄のタイトは間髪を入れず、「**あーこいつら、ジャブだよ**」と答えた。ナ、なに？ ジャブ、ジャブ？ 当時でも放送禁止用語だった言葉を10歳の金髪・ブルーアイのオージー（オーストラリア人）のガキが日本人のまだヒールになる前

の20歳のプリティ・ミヤイさまに平然と言
い放ったその態度に驚いた。

私は「もう戦争は終わったし、ジャブの表現はまずいんじゃないのか？ それに私も日本人だ、私に **apologize**（謝罪）しなさい」と諭した。するとタイトは「だって学校でもみんな使っているし、先生も言っていたよ」と返した。それに援護射撃を加えるかのように8歳の弟マンソンは「**apologize**ってどういう意味？」と聞き出す始末。私はこいつらの教育水準はどうなっているのだと訝しく思ったが、ガキとケンカしても得るものがないので、「ところでオーストラリア兵はいないのか？」と聞いてみた。その答えにまた驚いてしまった。

「だって**米国とオーストラリアは友達だもん。だから僕たちは彼らのことを理解できるし**、米国の兵士を応援することはオーストラリアの兵士を応援することと同じなのさ」
空いた口がふさがらないとは、ま

Vol.64

20歳のときに金髪・ブルーアイの
10歳のオージーから教わったこと



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

さしくこのことだとその瞬間は思った。でもよく考え
ると彼らの考えは決して間違
違ってはいないし、今の日
本人の子供たちは米国とは
友達だから、米国のことを
理解できるとは言えない。
残念なことだ。たぶん学校
教育というよりもオースト
ラリアの歴史観からすると、
今では同盟関係がある
日本だが、異文化のアジア
人とは一線を画した何かが
存在するのだろうと推測で

オレにも
言わせる!

北海道長沼発
ヒール宮井の憎まれ口通信

きる。

それは米国、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなどのアングロ・サクソンのDNAを受け継ぐ本能のことなのだろうか。もしくはこのアングロ・サクソンの公式に従えば金魚の糞のようになっても、米国に付いていれば近代における**勝ち組と評価される**ことの事実も認識すべきだろう。

さてみなさん、どう考えますか？ 普通20歳を超えた日本人とオーストラリア人同士の会話だったら、このような国益を超えた個人の尊厳にもかかわる人的資質を本音で語ることはできるのだろうか？ 20歳の日本の女子大生が「オーストラリアって米国よりも差別、偏見はなくてなんかく平和ほくって素敵♡」と平気で言いますが、本音がどこにあるのか知ったら、ワーキングホリデーでオーストラリアに行く若者は激減するでしょうね。

このような事実もあります。第二次大戦後、オーストラリアは国連軍として朝鮮戦争、その後ベトナム、イラク、アフガニスタンにも派兵され、米国との同盟関係は日本以上の絆を示しています。それを裏付けるかのように、今回、元CIA職員のスノーデン氏が内部情報をバラしてしまいましたね。CIAが米国駐在

するヨーロッパの国々の大使館を傍受、盗聴していたこと、もちろん同盟国であるはずの日本、ドイツも含まれていました。

でも報道によればCIAはやはりイギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの傍受、盗聴はしなかった……!? ウソです。もちろん大嘘ですが、米国は建前として同盟関係の最後の砦としたアングロ・サクソンの末裔のDNAの絆を残したいのでしょうか。

何が言いたかった？ 最近、団塊の世代が退職して中道路線を取ってきたとはいえ、ヒネクレ者としての本質は変わらない朝日新聞のように**反TPP、反米ののろしを上げて何の利益もない**ってことです。やるとしたら北海道・斜里町出身で、小泉政権時代の自民党幹事長をされた、自称「究極で偉大なるイエス・マン」を演じた武部勤氏のように「北海道を米国領にして

いただいても構いません」くらいのひれ伏した態度のそばにシグ・ザウエルの9mmピストルか自衛隊の89式5・56mm小銃をすべての家庭に置いておければ、日本と言う国が国際的に存続する意味があるのかも。

国内仕様車 VS 輸出仕様車

オーストラリアの人口は研修当時

の79年で1400万人、現在は2100万人を超えるまでになった。そして彼ら、彼女たちは車に乗る。V8エンジンで日本と同じ右ハンドル仕様の車が基本だが、街中を見ると日本車が全体の30%くらいだろうと思った。そしてトヨタ・カムリは日本や北米のみならずオーストラリアでも大人気である。

今回のオーストラリア・ツアーでは参加者に内緒のびつくり作戦を立てた。ツアー最後の締めとして、メルボルン郊外のアルトナ市にあるトヨタ・カムリ工場ツアーに参加した。私の家族が4輪駆動カムリを初代から乗り継いでいることもあり、59年から稼働しているこの国のトヨタ工場には昔から興味があった。

工場のツアー受付で所定の手続きをして中に入ると、外気温が28℃だというのが安全対策のために与えられたぶ厚い反射プレート付きのベストとヘルメットには参った。

興味があるとはいえ、所詮、自動車の工場なのだから今まで見てきた工場と大した違いはないと思っていった。ところが、何と車体全体をガルバナイズ処理、つまり普通の鋼板の数倍も錆に強いドブ漬け亜鉛メッキされた車体を使って組み立てられていたのだ。ちょっと難しい話ですね。日本国内の自動車会社は国内向けの

自動車と海外向けだと装備に違いがあるのか？ということである。

少し昔の話だが、国内向けのフロント・ガラスは事故の時に飛び散る強化ガラスで輸出はヒビ程度で済む安全ガラス、輸出仕様はドアの内側にセイフティ・バーが入っているが国内仕様はなし。輸出仕様のハイマウントタイプのストップライトは国内仕様には存在しなかった。現在でもセルフ式のガソリンスタンドが普通なのに、ガソリン投入口の形状やノズルの形状が輸出仕様とまったく違い、国内仕様は米国仕様よりも安全とは言いがたい。ではなぜ安全・安心と目頃から念仏のように唱えている日本の消費者が国内で目の前を走る車の安全性を問題にしないの不思議なのである。

トヨタのお客さま相談室にメールで問い合わせた。国内生産のカムリは車体全体を錆に強いドブ漬け亜鉛メッキされて組み立てられているのか？ トヨタとの約束でここではお答えできないが、ご自分の車も一度**国内製と現地生産や輸出仕様と比較したら面白い結果が出る**かもしれませんよ。

食も同じ。日本国内でつくられた農産物の品質が世界一……？？？ ホー、なるほどね。信じる者は救われる、ですか。